

平成 29 年度 第 1 回串間市総合戦略検討委員会 議事概要

1 開催概要

日 時：平成 29 年 8 月 3 日（木）10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：本庁舎 3 階大議室

出席団体：宮崎大学（委員長）、はまゆう農業協同組合、串間市大束農業協同組合、串間市漁業協同組合、串間商工会議所、宮崎銀行串間支店、宮崎太陽銀行串間支店、日南公共職業安定所、串間市自治会連合会長、串間市職員労働組合

2 対象事業

（地方創生加速化交付金を活用した事業） 4 件

事業名	担当課
① 地域連携・官民連携による宮崎版DMO推進事業	商工観光スポーツランド推進課
② 10市町連携インバウンド推進事業	
③ 焼酎産業成長加速化事業	
④ くしま農畜産物次世代オリジナルブランド創出事業	農業振興課

3 議事概要

【事業番号①】地域連携・官民連携による宮崎版DMO推進事業

（質 問）事業自体が串間市にどのような影響を与えているのか、どうとらえて分析しているのか。

（意 見）データが県内全体を捕らえているので、串間市総合戦略の検証ということであれば、串間市はどうなのかというコメントをいただいた方が、委員の皆様も納得できると考えるが如何。

（回 答）県内全体のデータしかなく、「神話ゆかり」の串間市独自の数値は持ち合わせていないところでありますが、都井岬のWiFi 設置や御崎神社のハード面の整備によってこれまで以上に、PR 出来る材料が増えたと考えている。

（意 見）今後は数値としての成果がほしいところである。

（意 見）スポーツランド推進課、というところのスポーツについても宿泊地が十分でなく苦戦している実態もある。このような課題を洗い出す必要があると思う。

（意 見）串間市としてどういう状態にあるのかというデータは必要ではないか。

（回 答）データに基づいた展開は重要だと考えております。

都井岬の観光客は平成 27 年度より 10 万人を割り込んでいる。

現状、外国人の受け入れは個人で 50～60 人程度。

（意 見）PDCA をしっかり回していかななくてはならない。KPI はどの自治体でもしっかり取り組んでいると思うが、施策をいくらしてもどうなっているか分からない。検証をするには、こういう形で増加した、或いはこういう形で減少したという数字データをしっかり取ることが重要である。

（意 見）実際に家族で訪れた。自然環境は非常に素晴らしいが、ビジターセンターの空調は故障していた。灯台の入場料も高いと感じた。遊歩道は閉鎖されてい

た。廃墟も目立つ。リピーターにはなりにくい。

また、御崎神社についても魅力を有しているため更なる情報発信が必要では。

(質 問) 御崎神社の情報発信は今取り組んでいるところだと思うが、ビジターセンターや遊歩道の修理、改善等についてはどうか。

(回 答) 空調は現在は稼働している。遊歩道については調査を行っており、今後、調査結果をもとに全てではないが活用できる遊歩道について整備を進める。料金設定については「共通パス」のようなものを検討中だが、課題は多い。

(意 見) 予算が厳しく、優先順位はあるが、アクセスを含め都井岬復興に向けた動きはあったほうがいい。

【事業番号②】 10市町連携インバウンド推進事業

(質 問) この KPI は串間市のものか。

(回 答) 串間市のデータです。

(質 問) 今は日南だが、串間の港に実際寄港できる可能性は。

(回 答) 直接的なクルーズ船の寄港は港の規模として厳しいため、油津港に寄港される旅客を対象とする。

(質 問) 目標値の 2,000 人というのはどこから設定されたか、実際の 1,200 人の内容は。

(回 答) 一昨昨年に串間市に訪れた外国人旅行者数をベースに目標設定。内容について、主に訪れていただいたのは都井岬、イルカランドとなっている。

(質 問) 経済効果は。

(回 答) イルカランドでの実際の売り上げなどの数字はいただいている。経済効果があったようであり、「更なる誘客を」との声をいただいた。今年度、寄港地油津港での PR を更に強化していく。

(質 問) 地元にそれなりの効果があるといいと思うが、地元産品への効果は？

(回 答) クルーズ船の誘客などが売上にもつながっていく。市内の飲食店などの細かい売込みを受け止められる体制作りに取り組んでいく。

(質 問) 観光バスが停車できるスペースのある土産の販売店はどの程度あるか。

(回 答) 大型バス多数が一度に駐車できるのはイルカランドと市内の一店舗のみである。ラウンドツアーについてはクルーズ船の船内にて前日に予約が集中した際など、翌日即対応できる仕組みをもった飲食店・観光施設でなければ難しいため、伸び悩んでいる。

(意 見) 10 市町村 DMO で取り組むほうが現実的なようだ。

(回 答) 地域連携 DMO については、観光庁からの許可も下りており、今年度 9 月 1 日を目処に新会社が発足する。(株式会社コーストライフ) 観光中心にプロモーションしていく。

- (質 問) 地域連携 DM0 における雇用は怎么样了っているか。
(回 答) 地域連携 DM0 の直接的な雇用は 2 名だが、関連事業者の仕事も創出されるので相対的には増えてくる見込みである。
(意 見) ぜひ地元雇用を進めてほしい。

【事業番号③】焼酎産業成長加速化事業

- (質 問) 昨年行われた税制改正によると、寄港のクルーズ船の観光客が直接（焼酎を）購入した場合、免税になるのではないかと思うが如何。
(回 答) クルーズ船には酒造組合が出店している。
- (質 問) 串間市内の 3 社も出店しているのか。
(回 答) 出店していない。出店料、売上など全体的に考えると難しい面もある。
- (意 見) 道の駅構想の中でその場を利用した形で、売りとして 3 社合同の取組があると面白いのでは。
(回 答) 焼酎のみならずアレンジした商品の開発など重要地場産業なので、しっかり支援していきたい。
- (意 見) 一大甘藷の生産地であるので、地場産品をアピールしながら焼酎であったり、果実酒、あるいは最近はアルコールなしの焼酎も開発されていると聞くので、時代にあった道の駅構想が必要である。
宿泊施設さえ整えば焼酎が自由に試飲できる施設も魅力的だと思う。
これから焼酎産業をどう上げていくかは大切な課題である。「くしまの焼酎を是非飲んでもらいたい」という方法論、アイデアが出せたら道の駅構想や市全体のイメージ作りにもいいと思う。
(回 答) この事業は終了したが、昨年度初めて市内 3 社連携の取組がされたこと、これは大きな成果だったと思っている。今年度も民間でそれを継続していただくこととなっている。
- (質 問) 酒造メーカーが地域の様々なイベントに協賛しているなど話を聞く。
串間市の三社は参加していないとのことなので、参加し焼酎の拡販をしていくのはどうか。
(意 見) 地元の酒造メーカーが地元のイベントに協賛していただくことも地域を盛り上げることに繋がる。
(回 答) 焼酎では、広域で酒器も併せて売っていくようなこともできるのでは。
(意 見) 地域の盛り上げに非常に重要なもの。継続した取組をしてほしい。

【事業番号④】くしま農畜産物次世代オリジナルブランド創出事業

- (意 見) 他の市町村に比べても数多くの新しい商品の開発に取り組んでいると思う。
(質 問) 事業は何年度に対するものか？この事業を敢えて総合戦略として取り組んでいる理由は。
(回 答) 道の駅事業との連携も含め 3～5 年間。
総合戦略のなかの位置づけとしては魅力ある資源を活用した産業の育成と雇用創出。本市の多種多様な地域資源を活用することで地方創生へ繋がるもの

と考えており、農林水産物を基幹として取り組む。

(質 問) 実際 1 年間で成果はあったのか。前年度 (平成 28 年度) の検証ということなので実績を伺いたい。

(回 答) ブランド化については串間市独自では難しいため、全国に発信できる規模にするためには国の認証を取得しながら、連動していくことが重要ではないかと協議したところである。(ヤマダイ甘藷の GI 取得、黒瀬ブリの ASC 取得)

(意 見) 6 次産業化の効果をいつ捉えるのかは難しい点もあるので戦略の報告の場合は見通しを含めたプレゼンテーションであれば理解も得やすいのではないかと。

(意 見) オリジナルブランドを作るにあたって、GI・ASC のような国レベルの認証を取得するブランド化は非常に素晴らしいこと。

(回 答) 6 次産業化の取組実績・成果として、昨年、新商品開発支援として 6 団体が新商品を開発。

たまたまクラブは既存の金柑アイス以外にイチゴ、お茶アイスを開発。

イオン九州と平成 30 年のお中元で商談中。フーデリーと商談中。

需用が多ければ、雇用の創出に繋がると考えている。

(意 見) 特徴ある商品ができつつある。

(意 見) 宮崎牛についても今年度、全国和牛共進会に向けて V3 を狙った県全体の取組、それに併せた「串間宮崎牛」も展開していただきたい。

(意 見) 2020 年、オリンピック・パラリンピックや道の駅構想に向けたブランド商品開発にも力を入れていただきたい。

(以上)